



# 多摩辺

学 校 だ よ り  
昭島市立多摩辺中学校  
校長 相部公太郎  
令和2年11月5日

強く 明るく 正しく

生徒たちは、検温・手洗い・マスク着用・黙食など感染症予防を着実に行いつつ、授業・生徒会活動・部活動などに前向きに取り組んでいます。そして、制限を受けたり我慢したりすることが多い中でも、休み時間には、笑い声や楽しそうに語り合う声を耳にします。昼休みには、校庭でサッカーやバレーボール、鬼ごっこなど、それぞれに遊び、歓声や笑いに満ちています。図書室で静かに読書をしていたり、教室でゆったり過ごしていたりしている生徒もいます。このように、多摩辺中学校には、一日を通して穏やかな時間が流れています。

一方で、国内の新型コロナウイルス感染者数は、10万4000人を超え、感染拡大が止まらない状況です。そして、感染をめぐる差別や中傷は全国に広がっています。ある病院では、職員の6割が「保育園の預かりを断られた」などのハラスメントを受けていました。また、感染者の職場などに、いやがらせ電話がかかるなどの被害がでています。なぜ、このような事が起こるのでしょうか。罰則を伴うロックダウンを採用しないで、「自粛要請」の政策が、「感染者を責める雰囲気」を生んでしまったのからでしょうか。悪意や憎しみからではなく、「愛する家族、愛する地域を守りたい」という家族愛・郷土愛が背景にあるからでしょうか。差別や偏見を生む原因は、きっと、複合的なもので、人それぞれに原因も違うでしょう。

今まで差別や偏見などは自分には関係ないと思っていた人が、「加害者」や「被害者」になりうるのがコロナ禍です。一日一日の学校生活を過ごす本校の生徒を見て、こういう時こそ、「強く 明るく 正しく」生きられる人に成長してほしいと強く思いました。